

第142回定例会 報告レポート

■2011年5月23日(月) 16:00~18:00

■INAX:GINZA(東京都中央区)

(本レポートの著作権は、メンテナンス研究会に帰属します。)

転記・引用等の際には、事務局にご一報下さい/連絡先は巻末に掲載)



■テーマ ~東日本大震災シリーズ①~

「被災して思うこと、そして復興に向けてねがうこと」

スピーカー：(有)カンセイ 根本 茂 様

(株)新興ウオターマネジメント工業 代表取締役 石川 勝 様

(有)国分寺産業 常務取締役 田村友輝 様

インタビュアー：坂本菜子(日本トイレ協会メンテナンス研究会代表)

3月11日に国難とも呼べる東日本大震災が起きました。被災された方には謹んでお見舞い申し上げます。

大震災の結果、東北地方の方はもちろんのこと、関東地方でも生活に仕事に…と大きな影響がありました。そこでメンテナンス研究会では、「東日本大震災シリーズ」と題して数回に渡り、トイレに限らない幅広い視点で、意見交換および研究活動の場を設ける事にしました。そこで初回となる今回は、福島県で被災した方や、震災ボランティアに関わった方などから、現場の生の声を伺うことといたしました。

1、福島県で被災して…(有限会社カンセイ<福島県いわき市> 根本茂様より)

こんにちは。私は福島県いわき市で浄化槽の保守点検業務を行っております、有限会社カンセイ<<http://www.kan-sei.com/>>の根本茂と申します。

震災当日、私は出張でいわきを離れていました。

新神戸から新幹線に乗って移動中、途中の掛川で新幹線が急停止しました。地震の影響とのことでした。そこで東京駅で新幹線を降り、交通はマヒしており大混乱の中、やっとの思いでホテルに着きました。

翌々日、知人に車で途中まで送ってもらい、タクシーを乗り継ぎながら、なんとかいわき市の自宅に帰ることができました。いわき市では電気は使えましたが、地震の影響で断水していました。

なにより、1番困ったのはトイレです。私が寄った駅



福島県からわざわざお越し下さった根本茂様

の公衆便所の和式トイレは汚物でいっぱいになっており、悲惨な状態でした。その他困ったことは、ガソリン不足、携帯電話の混線、食料不足、水不足でした。会社の方は一時的に社員がいわき市を離れてしまった事もあり、一時はどうなるかと心配しましたが、今はみんな戻ってきてくれ、復興に向けて一丸となって頑張っています。原発の問題もまだ影響が測り知れず、日々心を痛めております。しかし前向きに頑張ろうと思います。

2、千葉県の浄化槽業者として…

(株式会社新興ウォーターマネジメント工業<千葉県東金市> 石川勝様より)

こんにちは。私は千葉県東金市で浄化槽の維持管理業務を行っております、株式会社新興ウォーターマネジメント工業<<http://www.johkasou.co.jp/>>の石川勝です。

私の住んでいる千葉県では会社のある東金市から近い、九十九里町で漁港が被害に遭いました。最も被害が大きかったのは、浦安市の液状化現象でした。

震災があって一番困ったことは、ガソリン不足でした。なぜならバキュームカーが動かせないので、業務ができないからです。そこで3日間は業務を自粛することにしました。ただ浄化槽の清掃は落ち着いてからでも出来ますが、行政からは「(汚物の)汲み取りだけは遅らせないで欲しい」と言われました。しかし実際に運んでも、し尿処理施設では汚泥を焼却する為の重油も不足していた為、汲み取った汚泥を受け入れてもらえないという問題が生じました。これが次の課題だと私は気が付きました。

ちなみに私どもで維持管理をしている浄化槽は、2万5千件ありますが、損壊したところはありませんでした。確か16年前の阪神淡路大震災では、何よりも「トイレを助けて！」という意見が飛び込んできたので、今回も覚悟していましたが、逆に何も無くて拍子抜けした感じでした。被災地のトイレ対策が上手く行っているのか、気になる所です。



千葉県の浄化槽業者としてご活躍の石川勝様

3、震災ボランティアを通して…

(有限会社国分寺産業 <栃木県下野市> 田村友輝様より)

はじめまして。私は栃木県下野市でし尿処理、浄化槽維持管理、ゴミ収集を行っております、有限会社国分寺産業<<http://k-sangyo.co.jp/>>の田村友輝です。

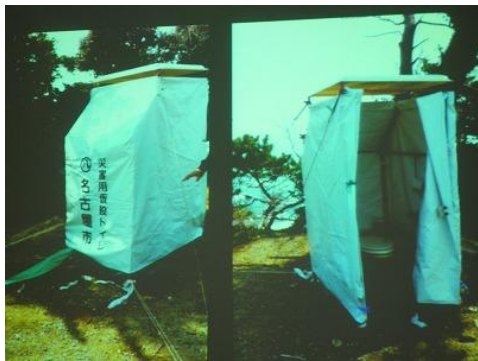
震災当日の私の体験ですが、あの瞬間は車が跳ねるほどの強い揺れを感じました。しばらくは電話が混線していて繋がらない状況でしたが、幸い、社員に twitter をやらせてい

ましたので、そのつぶやきの有無で社員の安否を確認しました。

下野市では、水・ガスは大丈夫でしたが、2日間停電しました。やはり困ったのはガソリン不足です。また計画停電にも困りました。なぜなら細かくエリア分けされたことにより、下水処理施設の上流は動いているのに、下流が停電で止まって溢れてしまう…というケースが多かったからです。

ところで、私は震災後に、東北地方に震災ボランティアとして支援活動をしています。はじめに訪れたのは、宮城県石巻市のある小学校です。そこには1200名の方が避難されていました。炊き出しでラーメンを作ったら「震災後、初めて温かいものを口にしたよ…」と感謝の言葉を頂きました。逆になかなか思うように復興が進まなくて、苛立つ事も多々あります。行政が機能しきれない部分や、情報や支援の格差が避難所ごとに生じているのが悔しかったですが、これが震災直後の本当の姿なのだと思います。

私が感じているのは、現地の方の声を聞くことが大事だということです。こちらで支援



ある避難所のトイレの様子

物資を用意しても、実際に現地で必要としているものとは限らないからです。そういった現地の方の声を聞く為に、私は南三陸町に復興支援の拠点を作り（＝支援場所を限定&固定化し）、現場とのコミュニケーションを重視した長期的な支援をしようと考えています。南三陸町のある地域では、630の方が暮らしています（5月末現在）。皆、復興に向けて前向きです。私や私の社員に出来る事をこれからも探し続けようと思います。



栃木県から震災ボランティアに通っている田村友輝様

4、意見公開会

◇インタビューの坂本代表の進行により、会場に来た参加者からも体験談を伺いました。

■①（株）総合サービス 新妻普宣氏より…

私は携帯トイレを扱っている業者ですが、今回は今までの阪神淡路大震災や新潟中越大地震と違い、被災地と連絡を取ることが困難でした。私は携帯トイレをいつでも提供できるよう、商品の準備をしておりましたが、新潟・中越地震の時は、翌日には連絡がついたものの、今回は、行政の方と連絡が取れたのは震災の5日後でした。この震災の大きさと深刻さを目の当たりにしました（编者注：なお、新妻氏の被災地での活動報告は、次回第143回にて紹介されております）

■②(株)レンタルのニッケン 寅太郎氏より…

私は宮城県～岩手県の沿岸部に支援に行きました。避難所のトイレは9割方使用禁止になっていました。バキュームカーが足りていなかったからです。やはり、現地に行ってみると報道と現実との違いに驚きました。テレビでは「支援物資は足りています」と言っても、現地ではまだ不足している状況もあり、複雑な気持ちになりました



現場のすさまじい状況を伺い、絶するばかりの会場参加者

◇会場からの感想や提案も出ました。

- ・行政でも民間でも「リーダー」が必要だ。
- ・支援物資は、ニーズも変わってくると思うので、柔軟な対応が必要だろう。
- ・地域によって必要としているものも違うので、ニーズを掘り起こしが大事。
- ・ひとりひとりに寄り添うような長期支援が必要だろう。等々…



未曾有の震災にみんなが困惑したことがよくわかった公開座談会でした。

5、最後に・・・

■根本様より：

現在、いわき市に全国からたくさんの支援物資が届いています。しかし、それを振り分け切れていない現実もあります。また原発のことは先が見えずに不安です。私が思うことは、「災害に想定外はありえない。全て想定内であって、準備が必要だ」ということです。この教訓を忘れないようにしたいです。

■田村様より：

情報が交差して混乱を招いていることも現実です。復興支援の拠点は、そういった混乱を防ぐためにも必要です。長期化するこの対策に、私達のできることはまだあります。

■坂本代表：

16年前の阪神淡路大震災の時に、日本トイレ協会は神戸市観光局の協力を得て、2月中旬から3月にかけて220か所のトイレを対象に「トイレに関する支援のための調査ボランティア」を行いました。全国から200人のボランティアが集まり、そこにはメンテナンス研究会のメンバーも数多く参加し避難所のトイレの清掃と調査をして回りました。

その後、気仙沼市において「災害とトイレ」についてのシンポジウムにも参加しましたが、その折当時の市長さんが「地震・津波が来たら山に逃げろ！」と市民に伝えていると

力説なさっていた言葉が今も思い出されます。今回の災害は規模も範囲も大きく、私達がボランティアにいける範囲を超えていましたので、各人の体験報告を伺うことにしました。そして多くの体験から今後起こりうるかも知れない首都圏大災害や、まだ課題の多く残る原発に対して個人として何ができるか、また予防対策についても、メンテナンス研究会らしい研究を続けて行きたいと思います。

6. 感想

3. 11…東日本大震災から4カ月の月日が過ぎました。

今回の定例会では、被災された地域の方、支援に行った方、それぞれのお話を聞くことが出来ました。その中で、テレビ、新聞などのメディアで報道されていることが全てではないことがわかりました。私自身、何が出来るのかを考えながら、節電をしたり、募金をしたりと取り組んでいます。この未曾有の大震災を通して学んだことを活かしていけるよう、しっかり心に刻んでいきます。

■レポート作成：小林明美/株式会社アメニティ

■編集：白倉正子/アントイレプランナー代表

日本トイレ協会メンテナンス研究会では常時、会員を募集しております。

会員になられると、定例会のお知らせや、報告レポートの送付等を受けられます。

□■日本トイレ協会メンテナンス研究会 入会概要■□

会員種別…法人会員〔年間費 30000 円〕

個人会員〔年間費 10000 円〕

○入会金は無し。

○後期以降（11月1日～3月31日）は半額。

希望者には所定の書類をお送りします。事務局にご一報ください。

◆事務局：〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢 685 (株)アメニティ内 (担当：内田)

TEL 045-372-1156 / FAX 371-7717

Mail : jimu@toiletmaintenance.org (担当：白倉)

ホームページ : <http://www.toiletmaintenance.org>

◆代表：坂本菜子 / 設立…1992年